

## 大滝ダム水源地域ビジョン 策定委員会 議事概要

1. 開催日時 : 令和8年2月10日(火)13時30分～15時
2. 場所 : テクノパーク・ならコミュニティセンター(奈良県五條市住川町1318)
3. 出席委員 : 湯崎委員長、三宅委員、古根川委員、泉谷委員、森委員、  
堤委員、小長谷委員
4. 議事次第
  - 1) 開会
  - 2) 開会挨拶
  - 3) 出席者の紹介
  - 4) 大滝ダム水源地域ビジョン策定委員会設立趣意書について
  - 5) 策定委員会規約(案)について
  - 6) 委員長選任
  - 7) 大滝ダム水源地域ビジョン策定(案)について
  - 8) 質疑
  - 9) 大滝ダム水源地域ビジョン策定の議決
  - 10) 閉会
5. 配付資料
  - ・資料0 : 議事次第、出席者名簿、配席図
  - ・資料1 : 大滝ダム水源地域ビジョン設立趣意書、策定委員会規約(案)、傍聴規定(案)
  - ・資料2 : 大滝ダム水源地域ビジョン概要書
  - ・資料3 : 大滝ダム水源地域ビジョン(冊子)
6. 議事要旨
  - 1) 大滝ダム水源地域ビジョン策定委員会設立趣意書について
  - 2) 策定委員会規約(案)について
    - (事務局)  
大滝ダム水源地域ビジョン策定委員会の設立趣意書、策定委員会規約(案)、傍聴規定(案)を説明する。
    - (全委員)  
設立趣意書、規約(案)、傍聴規定(案)に異議はなし。
    - (事務局)  
規約は全会一致で承認された。  
本委員会は委員7名中7名が出席しており成立する。
  - 3) 委員長選任
    - (委員)  
学識経験が豊富な湯崎委員を委員長に推薦する。
    - (事務局)

委員長は川上村長から推薦のあった湯崎委員でよろしいか。

(全委員)

異議なし。

(事務局)

湯崎委員を大滝ダム水源地域ビジョン策定委員会の委員長に選任する。

#### 4) 大滝ダム水源地域ビジョン策定(案)について

##### 5) 質疑

(事務局)

事務局より、大滝ダム水源地域ビジョン(案)を説明する。

(委員長)

施策の推進スケジュールの中期(3~4年)について、実現性について教えてほしい。

(事務局)

中期については既存活動の展開(新規活動)をすることで進めていきたい。

(委員)

ビジョン制定のタイミングを教えてください。本ビジョン(冊)地域概況(人口、水質等データ)が古いため、可能であれば更新してはどうか。

(事務局)

本ビジョンは本委員会を以て、委員の承認を得て制定することになります。

地域概況(人口、水質等データ)は、既に公表されているものを採用している。最新の地域概況(データ)も把握しているが傾向としては同様である。

(委員)

本ビジョンの施策が多岐にわたっているが、施策の進捗状況の点検はどのようにしていくのか。また、施策の進捗状況が停滞した場合の対応はどのようにするのか

(事務局)

原則1回開催する「(仮称)大滝ダム水源地域ビジョン推進連絡会」で施策の進捗点検を確認する。また、原則2年に1回開催する「(仮称)大滝ダム水源地域ビジョン委員会」で施策の進捗状況を報告し、必要に応じて施策の見直しを行う。

(委員)

本ビジョンの施策は何年間で完遂させる予定か。

(事務局)

本ビジョンの施策の推進状況により変化するものと考えており、本ビジョンの施策の完遂期限は定めていない。

(委員)

本ビジョン制定後、見直しもあり得るのであれば本ビジョン（冊子）に制定年月を明記してはどうか。

(事務局)

制定年月を追加する。

(委員)

本ビジョン制定後に新たな流域自治体の参画を求める必要はないか。

(委員)

現在は川上村と利水者の行政機関を中心とした参画としている。その他の流域自治体については、本ビジョンを紹介し、必要に応じて参画を求めて行くことで良いと思う。

(委員)

水利権を保つ奈良県広域水道企業団も参画すべきと思う。これについては今後、調整したい。

(委員)

必要に応じて、今後、要望があれば、奈良県の自治体と奈良県広域水道企業団にも参画していただく方向で良いと思う。

(委員)

川上村が行っている「山の保全」「水の保全」が、大滝ダム下流域の喜びにつながっていることは大変嬉しい。川上村と大滝ダム下流域とのつながりは特に重要であり、和歌山市の下流域との地域連携の内容が含まれている本ビジョンは、きちんとできていると思う。

大滝ダム建設当時はダム建設への闘争もあったが、現在は大滝ダム見学新聞コンクールや安定的な水の供給を通じて、大滝ダムのありがたみが下流域に伝わっており、このことが非常に重要であると感じている。

これからも本ビジョンを通じて川上村と大滝ダム下流域とのつながりが発展してほしいと考えるため大滝ダム建設の歴史についても、本ビジョンに記載し、広く周知してほしい。

(委員)

大滝ダム建設の歴史については、川上村に大きな負担があったことを本ビジョンの冒頭に入れてはどうか。

(事務局)

御指摘を踏まえ、本ビジョン冒頭「2. 大滝ダムについて」に「2. 1 大滝ダム建設の歴史」を追記する。

(委員長)

本ビジョンの「はじめに」の文章が少ない気がするので、加筆してはどうか。

特に「水源地域である川上村は水源地の村づくりをテーマに掲げ、川上宣言の発信や水源地の森の保全など源流の村としての役割を積極的に果たしてきました。」と書かれている部分について内容を膨らませてはどうか。

(事務局)

「はじめに」の文章の追記については、委員長の意見を考慮し、川上村と協議して決めさせて

いただく。

その後、委員長にも文章を確認していただきたい。

#### 6) 大滝ダム水源地域ビジョン策定の議決

(委員長)

委員からの意見をビジョンに反映し、後日、川上村と委員長に確認してもらい、問題がなければ承認と  
いうことでよいか。

(全委員)

異議なし。

(事務局)

異議がなかったため、後日、委員からの意見を反映したビジョンを川上村、委員長に確認していただき  
ます。

また、規約第6条(公開)に基づき本委員会資料を紀の川ダム統合管理事務所ホームページに掲載し  
公開します。

以上

## 出席者（委員）

所属	役職	氏名	出席
和歌山大学 食農総合研究教育センター	客員教授	湯崎 真梨子	出席
奈良県環境森林部	部長	三宅 浩	出席
和歌山県地域振興部長代理 地域振興部 地域政策局	局長	古根川 千寿子	出席
川上村	村長	泉谷 隆夫	出席
和歌山市長代理 企業局 経営管理部	部長	森 敦紀	出席
橋本市長代理 上下水道部	部長	堤 健	出席
紀の川ダム統合管理事務所	所長	小長谷 健	出席